

2024年3月期第2四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2023年10月30日



東証 プライム
証券コード：6754
<https://www.anritsu.com>

(ノート部記載なし)

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目 次

1. 事業概要
2. 2024年3月期第2四半期 連結決算概要
3. 2024年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

(ノート部記載なし)

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ◆モバイル市場：5G、5G活用
- ◆ネットワーク・インフラ市場：データセンター、光NW、無線NW
- ◆エレクトロニクス市場：基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心



- ◆X線検査機
- ◆金属検出機
- ◆重量選別機

環境計測事業



- ◆EV・バッテリー向け試験
- ◆ローカル5G、プライベート5G
- ◆道路、ダム・河川等のモニタリング

その他



- ◆センシング
& デバイス
- ◆その他

(セグメント別売上比率)

2023年3月期 実績（連結）：1,109億円

通信計測 66%			PQA 22%	環境計測 6%	その他 6%
モバイル 51%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 19%			

2024年3月期（4-9月）実績（連結）：509億円

通信計測 65%			PQA 23%	環境計測 6%	その他 6%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 35%	エレクトロニクス 20%			

(通信計測事業 地域別売上比率)

2023年3月期 実績

日本 15%	アジア他 43%	米州 24%	EMEA 18%
--------	----------	--------	----------

2024年3月期（4-9月）実績

日本 13%	アジア他 38%	米州 28%	EMEA 21%
--------	----------	--------	----------

PQA：Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 2Q（7-9月）で受注高・売上高挽回も、上期では減収減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	579	558	△ 21	△ 4%
売上高	540	509	△ 31	△ 6%
営業利益	54	29	△ 25	△ 46%
税引前利益	68	36	△ 32	△ 47%
当期利益	51	28	△ 23	△ 45%
当期包括利益	101	71	△ 30	△ 30%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

グループ全体の受注高は前年同期比4%減の558億円、売上高は前年同期比6%減の509億円となりました。営業利益は前年同期比46%減の29億円、当期利益は前年同期比45%減の28億円となりました。当第2四半期で受注、売上高を挽回しましたが、結果として当第2四半期連結累計期間は、減収減益となりました。

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測とPQAは前年同期比減収減益、環境計測は増収増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	363	331	△ 32	△ 9%
	営業利益	54	31	△ 23	△ 43%
PQA	売上高	119	117	△ 2	△ 2%
	営業利益	5	2	△ 3	△ 53%
環境計測	売上高	23	30	7	33%
	営業利益	△ 4	△ 2	2	-
その他	売上高	34	30	△ 4	△ 12%
	営業利益	4	3	△ 1	△ 19%
調整額	営業利益	△ 5	△ 5	△ 0	-
合計	売上高	540	509	△ 31	△ 6%
	営業利益	54	29	△ 25	△ 46%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

PQA：Products Quality Assurance

通信計測事業は、生成AIの普及拡大によるデータセンター等でのネットワーク高速化に向けた測定需要は堅調であるものの、世界的な5Gスマートフォンの開発投資需要の減少によるモバイル市場の成長鈍化により、売上高は前年同期比9%減の331億円、営業利益は前年同期比43%減の31億円（営業利益率9.4%）の減収減益となりました。

PQA事業は、食品市場の品質保証プロセスの自動化、省人化を目的とした設備投資需要が堅調に推移したものの、海外市場での中小型案件の割合が増加したことにより、売上高は前年同期比で2%減の117億円となりました。また、費用面では、一部の原材料価格の高騰に加えて、販売活動の強化による販売促進費や物流費等の増加が影響し、営業利益は、前年同期比53%減の2億円（営業利益率2.1%）となり、減収減益となりました。

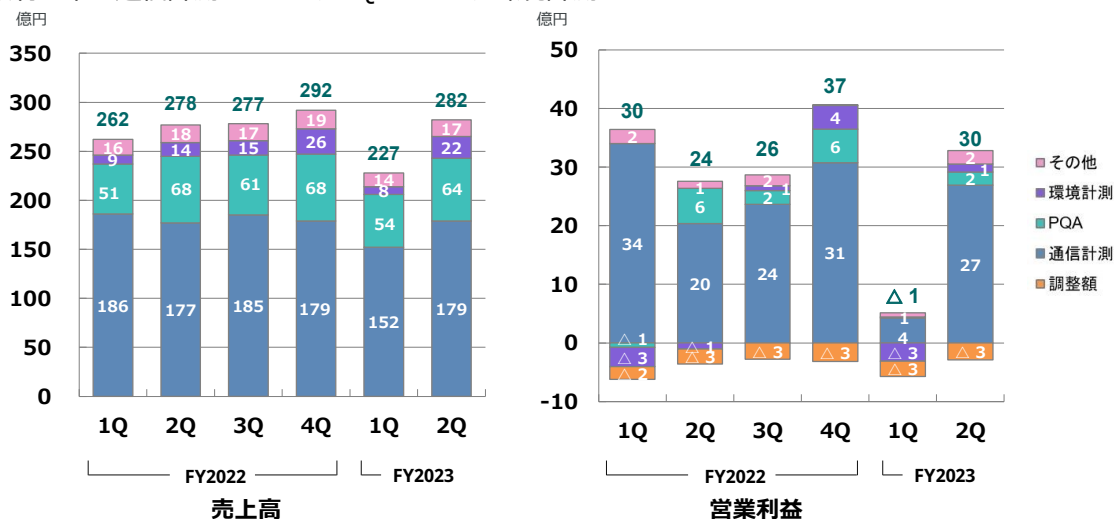
環境計測事業は、国内においてEV・バッテリー向け試験需要が堅調に推移し、売上高は前年同期比33%増の30億円、営業利益は前年同期比2億円増の△2億円の増収増益となりました。

その他の事業では、売上高は前年同期比12%減の30億円、営業利益は前年同期比19%減の3億円（営業利益率9.8%）の減収減益となりました。

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 2Q(7-9月)では、前年同期比 連結で増収増益

営業利益率：通信計測 15.0%、PQA 3.5%、環境計測 6.4%



第2四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結	30億円（営業利益率：10.6%）
通信計測	27億円（営業利益率：15.0%）
PQA	2億円（営業利益率：3.5%）
環境計測	1億円（営業利益率：6.4%）

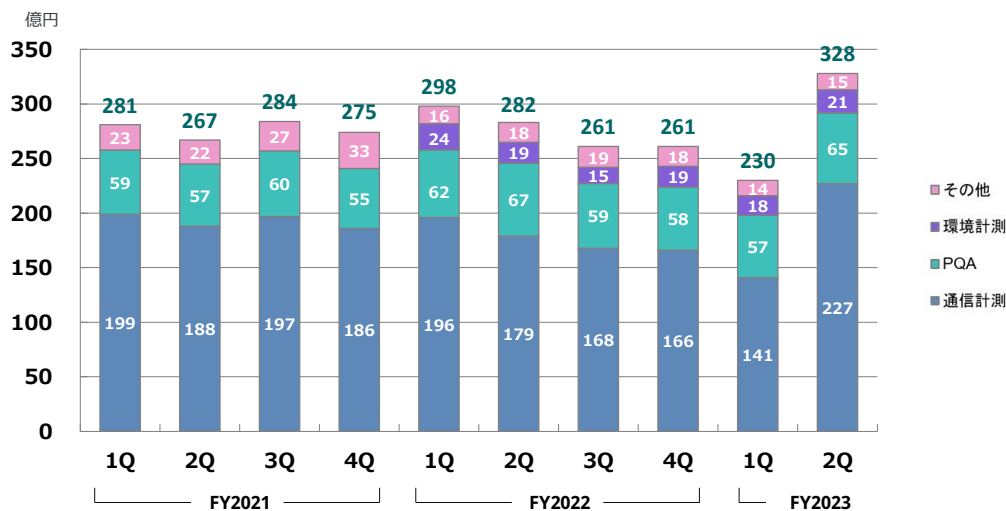
2-4. 事業別営業概況

セグメント 2024年3月期（4-9月）の状況	
➡ 通信計測：世界的な物価、人件費上昇等で止まっていた設備投資が再開 固定ネットワークの高速化需要は順調	
モバイル	アメリカと台湾にて5G開発市場の投資が再開
ネットワークインフラ	グリーンデータセンターや生成AI専用のデータセンターの構築が加速
エレクトロニクス	6G基礎研究がスタート
アジア他・日本	中国のスマホ市場の回復に遅れ
アメリカ	固定ネットワーク高速化への投資は順調 生成AI等の好調によりデータセンター市場が活況
➡ PQA：欧米の食肉市場が堅調。自動化、省人化の動きが活発化	
➡ 環境計測：EV・バッテリー向け試験装置の需要が堅調	

(ノート部記載なし)

2-5. 受注高推移

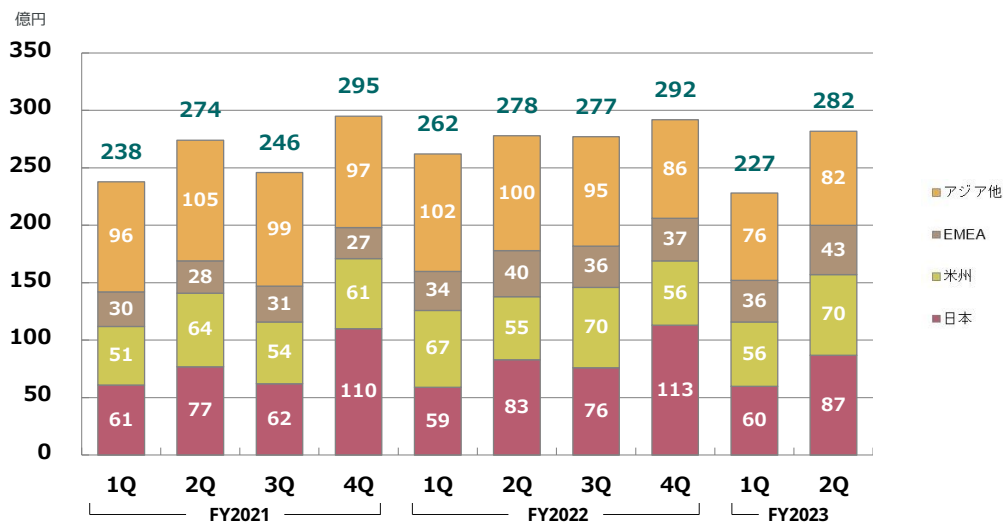
▶ 前年同期比 通信計測：27%増、PQA：3%減、環境計測：11%増



第2四半期のセグメント毎の受注高は、それぞれ前年同期比、通信計測事業では27%増の227億円、PQA事業では3%減の65億円、環境計測事業では11%増の21億円となりました。

なお、受注残高はグループ全体では422億円（前年同期比7%増）、通信計測事業では286億円（同13%増）、PQA事業では73億円（同8%減）、環境計測事業では48億円（同1%増）となりました。

2-6. 地域別売上高推移



(注) 値はそれぞれで四捨五入

(ノート部記載なし)

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率 15.6%

FY2023 (4-9月)

①営業CF： 79億円

②投資CF： △19億円

③財務CF： △33億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)： 60億円

現金同等物期末残高

414億円

有利子負債高

74億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳 (単位：億円)

その他	29		
売上債権	13		
減価償却	30		
税引前利益	36		
税金	△10	設備投資 △13	配当金 △26
仕入債務	△19	その他 △6	
			その他 △7

営業CF 79

投資CF △19

財務CF△33

営業キャッシュフローは、79億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、19億円の資金支出となりました。

その結果、フリー・キャッシュフローは60億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは、33億円の資金支出となりました。主なものは、配当金の支払い26億円（期末配当分1株20円）です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より46億円増加の414億円となりました。

3. 2024年3月期 通期業績予想（連結）

- 2023年4月28日に公表した通期業績予想を下記のとおり修正
配当は、期初計画とおり1株当たり年間40円を予定（期末配当：20円）

		(単位：億円)			
		2023/3期	2024/3期		
		前期実績	通期予想		前期比
			4/28発表	10/30発表	増減額 増減率(%)
売上高		1,109	1,155	1,115	6 1%
営業利益		117	137	109	△ 8 △7%
税引前利益		124	137	114	△ 10 △8%
当期利益		93	100	85	△ 8 △8%
通信計測	売上高	728	740	710	△ 18 △2%
	営業利益	109	120	93	△ 16 △14%
PQA	売上高	248	260	260	12 5%
	営業利益	13	16	16	3 20%
環境計測	売上高	64	90	80	16 25%
	営業利益	1	6	5	4 872%
その他	売上高	69	65	65	△ 4 △6%
	営業利益	6	5	5	△ 1 △11%
調整額		△ 11	△ 10	△ 10	1 -

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

(参考) FY22 実績為替レート : 1米ドル135円、1ユーロ141円
FY23 H1実績為替レート : 1米ドル141円、1ユーロ153円
FY23 H2想定為替レート : 1米ドル140円、1ユーロ150円

業績見通しについて、2023年4月28日に公表した業績予想を修正します。当期の世界経済は、コロナ禍からの回復が進展する一方で、長期化するインフレや金融引き締めの影響、地政学的リスクの高まり等により、景気回復は一進一退の状況にあります。

当社グループの主力である通信計測事業においては、生成AIの普及拡大によるデータセンター等でのネットワーク高速化に向けた測定需要は堅調であるものの、世界的なスマートフォンの出荷台数の減少等による顧客の投資判断の慎重姿勢によって5Gスマートフォンの開発投資需要が減少し、モバイル市場の成長が鈍化しています。

このような状況から、上期の実績も踏まえて、通信計測事業の売上収益を710億円、営業利益を93億円にそれぞれ下方修正します。

また、環境計測事業については、一部の大型案件の売上計上予定時期が来年度に変更になったこと等により、売上収益を80億円、営業利益を5億円にそれぞれ下方修正します。

PQA事業及びその他事業においては、期初計画からの変更はありません。営業利益の修正、金融収益・費用の計上の影響を織り込んだ結果、税引前利益を114億円、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益を85億円にそれぞれ下方修正します。

なお、連結での受注高1,155億円については、期初計画からの変更はありません。

下期の想定為替レートは1米ドル140円、1ユーロ150円に見直しています。配当については、期初計画どおり1株当たり年間40.00円を予定しております。

4.当社の取り組みについて

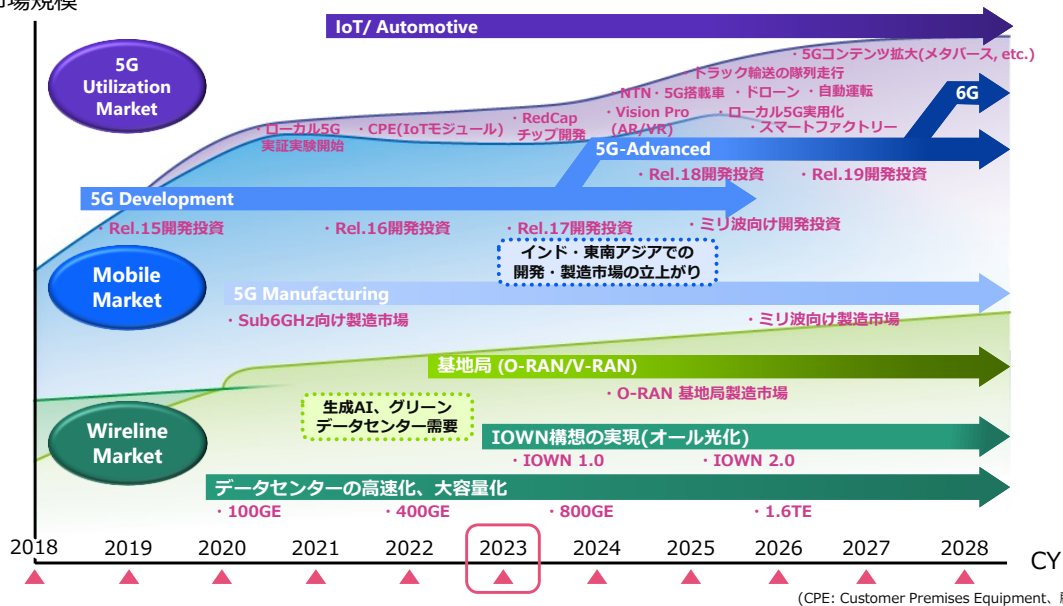
濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

(ノート部記載なし)

4-1. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



(CPE: Customer Premises Equipment、顧客構内設備)

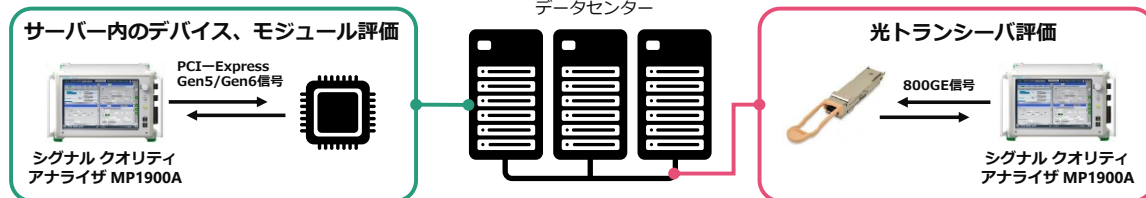
(ノート部記載なし)

4-2. 製品紹介：ネットワークの高速化に向けたソリューション

生成AIの普及によるデータセンターの大容量化に伴うデバイス/モジュール評価に対応

- ・ PCI-Express Gen5→Gen6
伝送容量が2倍

- ・ 100GE→400GE→800GE
サーバー間の光インターフェース高速化



■ 特徴

- ・ 100GE/400GE/800GE対応、PCI-Express Gen5/6対応

■ 対象市場

- ・ GPU/CPU、高速光通信デバイス/モジュールの開発市場

■ 対象顧客

- ・ チップベンダ、光トランシーバベンダ、ネットワーク機器ベンダ、ハイパースケーラー

(ノート部記載なし)

4-3. 製品紹介：最新の無線LAN機器評価ソリューション

320MHzの広帯域のWi-Fi 7デバイスを評価

無線品質試験



■ 特徴

- Wi-Fi 7のプロトコルを搭載、実環境での通信品質評価を実現
- 標準規格 IEEE802.11 b/g/a/n/ac/ax/be(Wi-Fi 7)に準拠。幅広い無線LAN機器の評価に対応
- かんたん操作で、ライトユーザ層から専任の無線技術者まで幅広く貢献

■ 対象市場

- スマートフォン、宅内ルータ・ゲーム機・家電などIoTデバイス、通信モジュールの開発・製造市場

■ 対象顧客

- スマートフォンベンダ、IoTデバイスベンダ、モジュール・チップベンダ

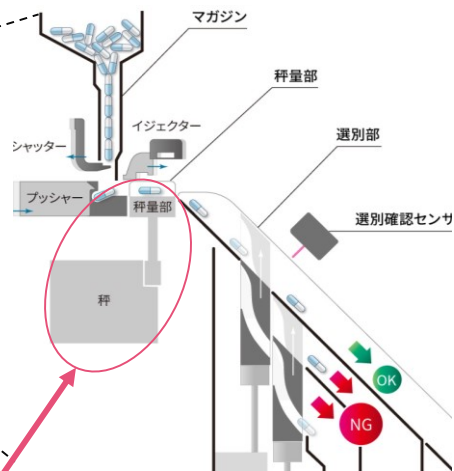
(ノート部記載なし)

4-4. 製品紹介：医薬品市場向けソリューション

Anritsu
Advancing beyond

医薬品向け高精度カプセルチェッカー

オートチェッカ（重量選別機）KWS9002APシリーズ



■ 特徴

カプセル医薬品の重量を高速・高精度で全数検査

- ・高性能フォースバランス秤は ± 0.5 mgの高精度を実現（業界最高ランク 最高測定精度*）

■ 対象顧客

- ・製薬会社

* 当社調査結果による

（ノート部記載なし）

4-5. 製品紹介：軽量品の超高速計量ソリューション

高速・高精度を極限まで追求した重量選別機

オートチェッカ（重量選別機）KWA7000シリーズ



600個/分→**1,000個/分**（世界最高クラスの選別スピード*）

■ 特徴

- ・ 最高選別能力1,000個/分、最高選別精度 $\pm 0.006\text{g}$ を実現*

■ 対象顧客

- ・ 菓子メーカー

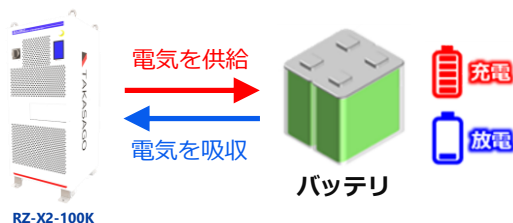
* 当社調査結果による

（ノート部記載なし）

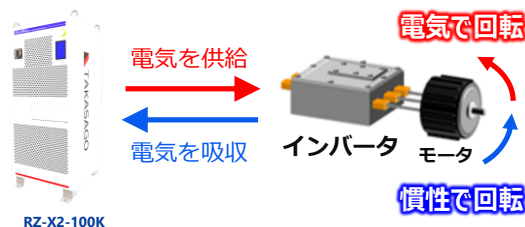
4-6. 製品紹介：高性能電源ソリューション

EVのパワートレイン評価やバッテリーの試験をサポートする高性能電源

バッテリー充放電試験



インバータ特性試験



■ 特徴

- ・ モータ、インバータの特性試験やバッテリーの充放電試験に1台で対応
- ・ 高精度、高速応答、高安定、高効率な電力制御により実環境を模擬した評価が可能

■ 対象顧客

- ・ 自動車メーカー、自動車部品メーカー、バッテリーメーカー

(ノート部記載なし)

4 - 7. CEATEC 2023に出展

CEATEC



アジア最大級 デジタル技術の総合展示会

会期：2023年10月17日～10月20日
会場：幕張メッセ（千葉市）
出展者数：684社／団体

アンリツブースの概要

テーマ

「はかる」が創る持続可能な未来

見どころ

4つのカンパニーと研究所の社会課題
解決に役立つ製品やソリューション
を5つのエリアで紹介

ブース来訪者数

1,398人（昨年約4倍）

自動車：
EV、PHVの性能向上を支える
ハイブリッド電源などの展示



医療：
眼科診断機器組み込み用
センシング光源の展示

5G利活用：
自動バレーパーキング（AVP）
評価システム（dSPACE社との
協業）の展示



食品：
食品製造ラインでの異物混入や
形状不良、数量不足などを
検査するX線検査機の展示



次世代技術の研究：
6Gに向けた研究などを
パネル展示

（ノート部記載なし）



(ノート部記載なし)